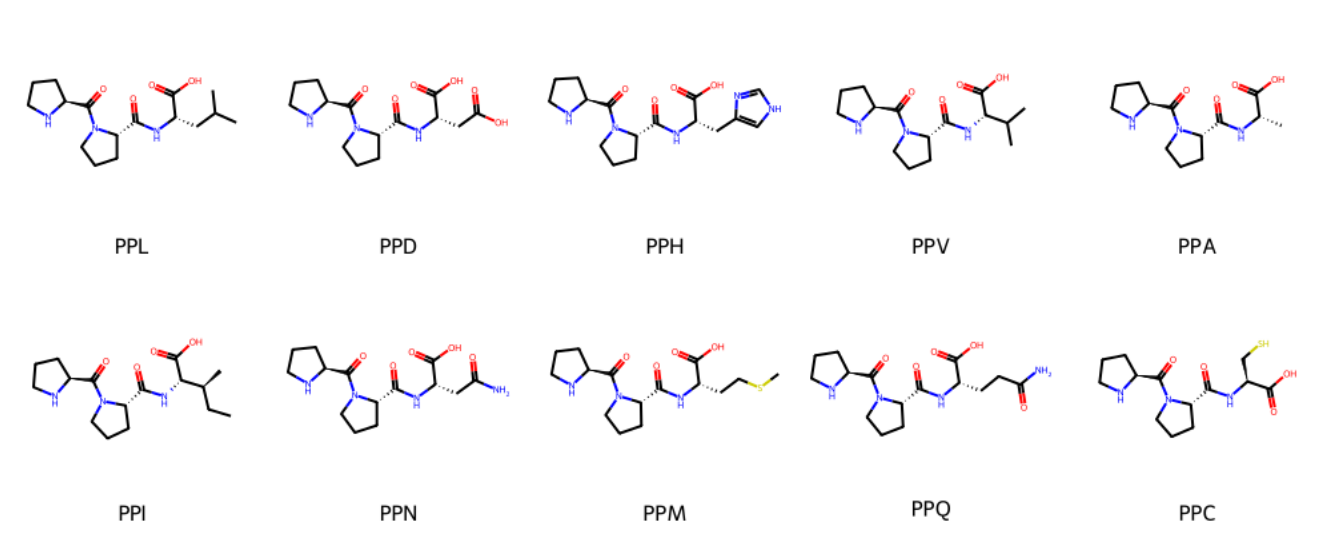


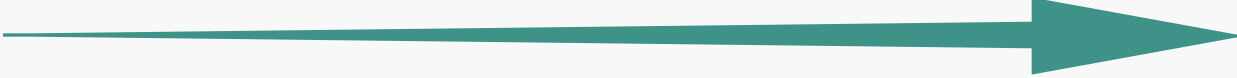


今後の方針

今回構築したモデルで予測された上位のペプチドを合成し、TGR5活性評価を行う。
そこで得られたデータから解析を行う。

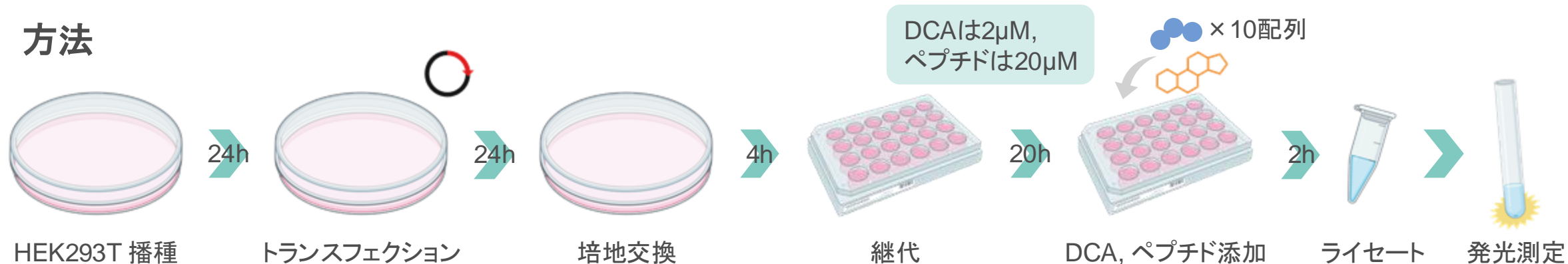


モデルによる予測の上位10配列

	10/4～10/7	10/7～10/11	10/14～10/19
ペプチドアレイ合成			
TGR5活性評価			
モデルの解析、改善			

目的: 機械学習により予測されたTGR5活性を示すペプチドをペプチドアレイで合成し、評価する。

方法



ペプチドの添加に関して

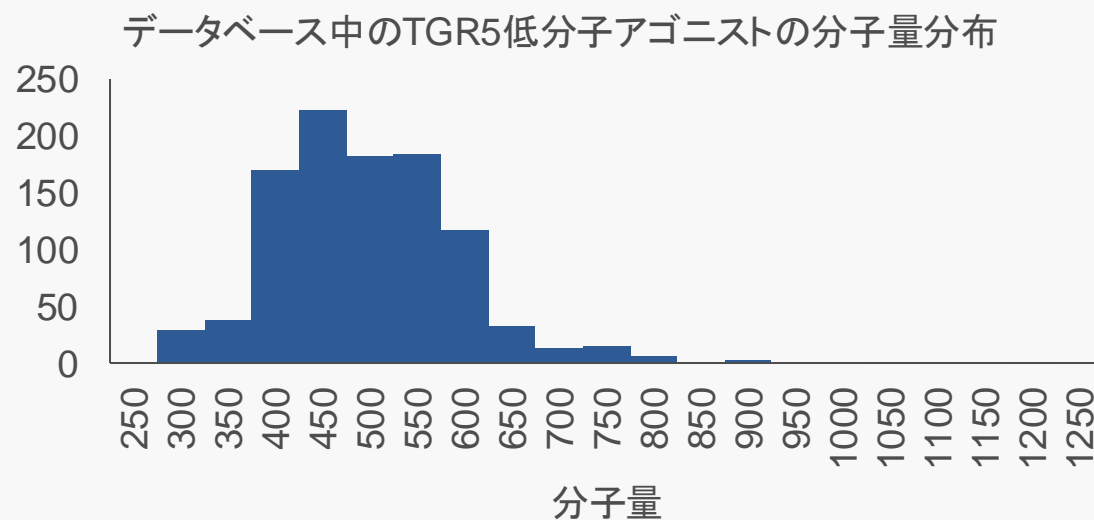
方法: 1スポットあたり50 μ LのHBSSでペプチドを溶出し、溶出液50 μ Lをwellに添加する。

- 8スポット分合成しているため400 μ Lの200 μ M溶出液が得られる。
- 1スポットあたり約10nmolのペプチドが得られるため、1wellあたりのペプチド濃度は約20 μ Mになる。
 - 元々の評価系ではペプチドを2 μ Mで添加していたが、現状ポジコン(3残基ペプチドで活性がでるもの)がないので、多めに20 μ Mで添加する。

目的:候補ペプチドの残基数を考える

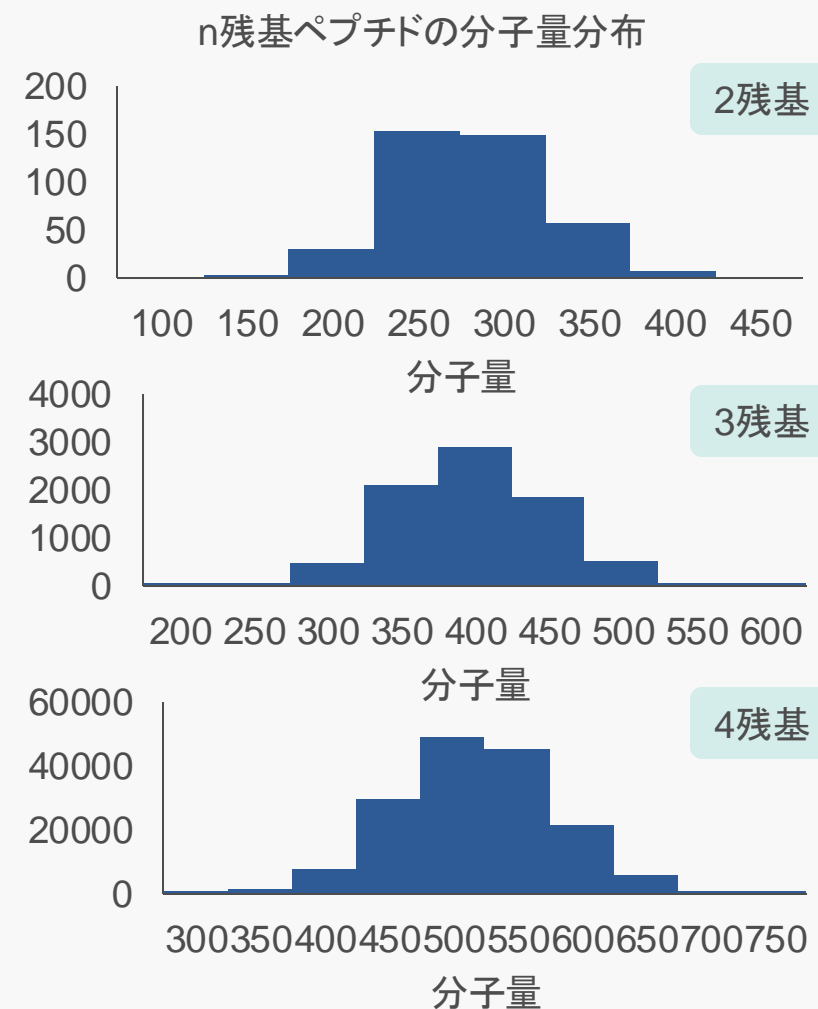
方法:データベースのTGR5低分子アゴニストの分子量と、n残基ペプチドの分子量を比較する

結果:






- データベース中のアゴニストの分子量は250～650に集中していた。
- 構造相関を考えると、分子量が近い2～4残基が適切と考えられる。

候補ペプチドは2～4残基



短期予定

	10/15～10/18	10/21～10/25	10/28～11/1
ペプチド合成			
TGR5活性評価			
別のペプチドを合成			
モデルの解析、改善	